

# COTOBA Agent OSS による 対話システムの実装

2020/10/08 第1回対話システム勉強会 (株) コトバデザイン プリンシパル・ソリューションアーキテクト 山上 勝義

本発表の一部は、令和2年度総務省委託研究「高度対話エージェント技術の研究開発・実証」の成果によるものである。

### 講演者自己紹介



自然言語処理・音声インターフェース・対話システムの研究開発をやってきました

- □ 京都大学大学院工学部卒(修士)(1993/03)
- □ パナソニック(株)(1993/04 2019/01)
  - □ 日本語形態素解析技術の研究開発
  - □ テキスト音声合成技術の研究開発、製品化
  - □ 対話システムの研究開発、製品化 (2014 ~ 2019/01)

https://www.jstage.jst.go.jp/article/pjsai/JSAI2017/0/JSAI2017\_3Q16in1/\_article/-char/ja

- □ 産総研 人工知能研究センター(出向)(2017/3~2018/12)
  - □ 知識ベースに基づくユーザ意図理解の対話技術の研究

https://www.isca-speech.org/archive/AI-MHRI 2018/pdfs/2.pdf

- □ (株) コトバデザイン (2019/2~)
  - 対話エージェント応用のソリューション開発

### 本日ご紹介する内容



- □ COTOBA Agent OSS について
- □ COTOBA Agent OSS の動かし方
- AIML での対話シナリオの実装例
  - □ 一問一答型
  - □ ネットワーク型
  - □ スロットフィリング型
  - 他の対話エンジンとの連携

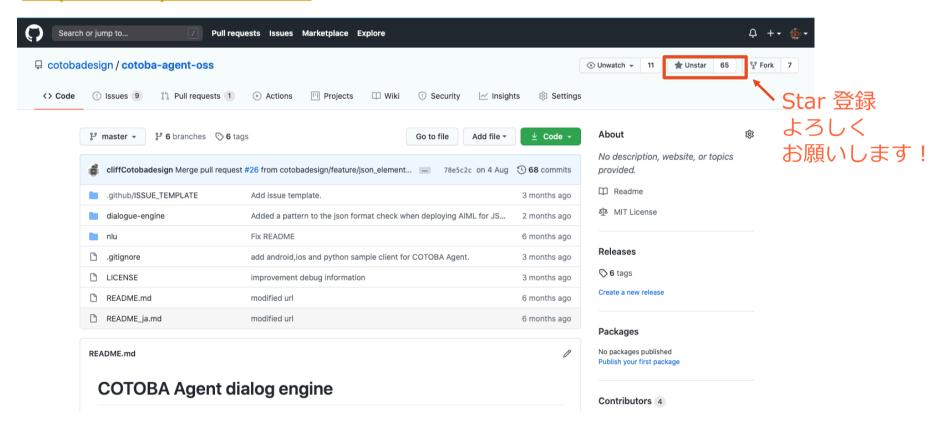


# COTOBA Agent OSS について





### http://bit.ly/cotobaoss







- インタプリタ型の対話エンジン(対話処理実行環境)です 対話エンジン自体は Python で記述されています
- AIML (Artificial Intelligence Markup Language)で対話処理を記述します

https://ja.wikipedia.org/wiki/Artificial Intelligence Markup Language

COTOBA DESIGN が AIML の仕様を一部独自拡張しています

- JSON データ構造の取り扱い/REST API での外部サービス呼び出しなど
- ⇒ COTOBA AIML (cAIML) と呼んでいます

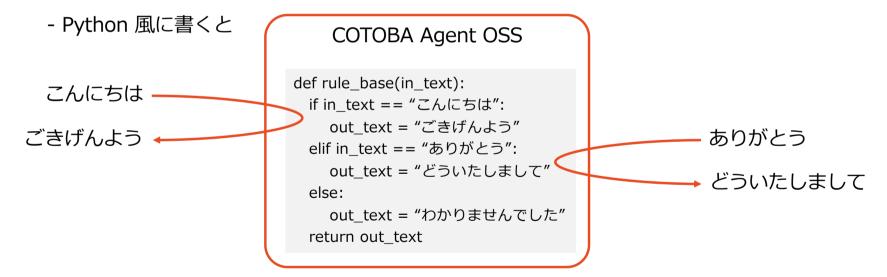
ドキュメント: https://cotoba-agent-oss-docs-ja.readthedocs.io/en/latest/index.html

- □ 日本語/英語を入出力にした対話処理を実行出来ます Mecab による形態素解析を利用しています
- □ 非言語情報(メタデータ)入出力もサポートしています センサデータやロボットと連携した対話処理も記述できます

2020年音響学会春季研究発表会: <a href="https://jglobal.jst.go.jp/detail?JGLOBAL\_ID=202002229716304969">https://jglobal.jst.go.jp/detail?JGLOBAL\_ID=202002229716304969</a>

# COTOBA Agent OSS でできること(1) COTOBA DESIGN

- □ ルールベースの対話処理を実行できます
  - ルールベースの対話処理とは?
    - if 入力テキストがある条件を満たす then ある応答テキストを出力する
    - パータンマッチによる条件分岐処理を組み合わせて処理内容を記述





# COTOBA Agent OSS の動かし方

### 事前準備



■ MeCab (日本語形態素解析ツール) のインストール

macOS の場合: homebrew でインストール

```
$ brew install mecab
```

\$ brew install mecab-ipadic

Linux (Ubuntu) の場合: apt でインストール

```
$ sudo apt install mecab
```

\$ sudo apt install libmecab-dev

\$ sudo apt install mecab-ipadic-utf8

### Windows の場合:

https://github.com/ikegami-yukino/mecab/releases/tag/v0.996

を参考にインストールして下さい

# COTOBA Agent OSS のセットアップ ( COTOBA DESIGN

- □ COTOBA Agent OSS のインストール
  - ※ 動作確認済みの Python のバージョンは 3.7.X です

```
$ git clone https://github.com/cotobadesign/cotoba-agent-oss.git
Cloning into 'cotoba-agent-oss'...
...
$ cd cotoba-agent-oss/dialog-engine
$ pip3 install -r requirements.txt
...
$
```

## Python の仮想環境でセットアップ



■ macOS の場合:

python3, pyenv, pipenv のインストール

```
$ brew install python3
$ brew install pyenv
$ pip3 install pipenv
```

Python 仮想環境の構築 (git clone https://github.com/cotobadesign/cotoba-agent-oss.git の後)

```
$ cd cotoba-agent-oss/dialog-engine
$ pipenv --python 3.7 install
$ pipenv shell
(dialog-engine) $
```

■ Linux (Ubuntu) の場合:

参考: https://note.com/mokuichi/n/n627eb6773aad





□ コンソールからの起動 (basic/storage/categories/ にあるサンプルの AIMLを実行)

```
$ cd cotoba-agent-oss/dialog-engine/basic/script
$ ./console.sh
Loading, please wait...
/Users/yamagami/cotoba-agent-oss/dialogue-engine/basic/script
basic, vv0.0.1, initiated March 01, 2020
That's a difficult question.
>>> good morning
Are you sleeping without staying up late?
>>> <mark>yes</mark>
It's nice to wake up in the morning.
>>> おはよう
昨日は、早く寝ましたか?
>>> <mark>はい</mark>
朝は、すっきり目が覚めることができたんですね。
>>> What time is it now
14:19:08
>>> <mark>今何時</mark>
14時19分13秒です。
>>>
```





■ REST API サーバとしての起動 (basic/storage/categories/ にあるサンプルの AIMLを実行)

```
$ cd cotoba-agent-oss/dialog-engine/basic/script
$ ./flaskYadlan.sh
Initiating Yadlan Flask Service...
Loading, please wait...
Server start...
* ...
```

### □ サンプルクライアントからの接続

```
$ cd cotoba-agent-oss/dialog-engine/basic/script
$ python3 simple_request.py
>>>おはよう
夜更かしせずに寝ていますか?
>>>はい
朝は、すっきり目が覚めることができたんですね。
>>>>
```

### 対話シナリオのファイル群



```
$ cd cotoba-agent-oss/dialog-engine/basic
                                               storage
$ tree storage
storage
      categories
                                                     properties
                                                         nlu_servers.yaml NLUサーバ設定値定義
          basic_en.aiml
          basic_ja.aiml
                                                         defaults.txt
                                                                         name 変数初期値定義
     lookups
                                                         properties.txt
                                                                         bot タグ属性値定義
          denormal.txt
                                                     sets
                                                        daytimeAmbiguous.txt
          gender.txt
                         置換処理定義ファイル
                                                         daytimeAmbiguous_en.txt
                                                                                set タグ用定義ファイル
          normal.txt
                                                         daytimeBad.txt
          person.txt
          person2.txt
      maps
          downcount.txt
                         map タグ用定義ファイル
          upcount.txt
```

#### 自作した AIML を試す場合

- \$ cp -r basic sample などとしてsample/storage/categories/に\*.aiml をおく(使わない\*.aiml は削除)
- \$ cd sample/script && ./console.sh で実行



# cAIML での対話シナリオの実装例

### AIMLの基本構造



```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" ?>
<aiml version="2.0">
   <category>
       <pattern>こんにちは</pattern>
       <template>ごきげんよう</template>
   </category>
   <category>
       <pattern>ありがとう</pattern>
       <template>どういたしまして</template>
   </category>
   <category>
       <pattern>*</pattern>
       <template>わかりませんでした</template>
   </category>
</aiml>
```

■3つのタグで1つのルールを表現します

category タグ: 1つのルール

pattern タグ: 当該ルールを適用する入力文のパターン

template タグ: 当該ルールを適用した時の出力文

Docs: 4. COTOBA AIML: 基本要素

□ 入力文が pattern タグ内に指定したパターンと 照合され、適用されるルールが決定されます

pattern タグ内に記述したパターンの種類によって

マッチングの優先順位が規定されています

※記述した順番でマッチングが行われるわけではありません

Docs: 7. パターンマッチング

□パータンとして通常の文字列以外に任意の文字列と 照合するワイルドカードが指定できます(例:\*)

Docs: 7.1. \* ワイルドカード

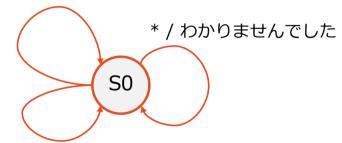
## ルールベースの対話制御モデルの種類



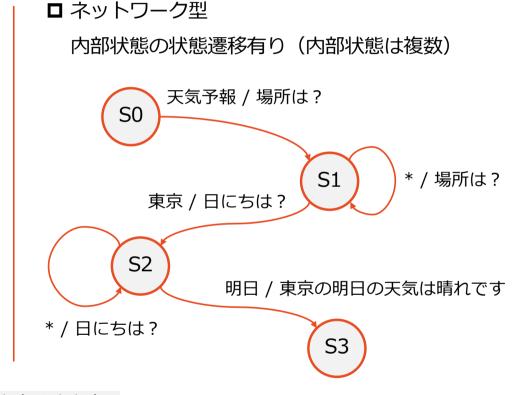
□ 一問一答型

内部状態の状態遷移無し(内部状態は1つ)

こんにちは / ごきげんよう



ありがとう / どういたしまして



凡例: 入力文/出力文

## 一問一答型の実装例



### sample1.aiml

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" ?>
<aiml version="2.0">
   <category>
       <pattern>こんにちは</pattern>
       <template>ごきげんよう</template>
   </category>
   <category>
       <pattern>ありがとう</pattern>
       <template>どういたしまして</template>
   </category>
   <category>
       <pattern>*</pattern>
       <template>「 <star /> 」はわかりませんでした</template>
   </category>
</aiml>
```

■ ワイルドカードにマッチした文字列を template タグ中で参照(取得)出来ます

star タグ: <star />

Docs: 6.1.57. star

#### □ 対話例

\$ cd cotoba-agent-oss/dialog-engine/basic/script
\$ ./console.sh
>>> こんにちは
ごきげんよう。
>>> ありがとう
どういたしまして。
>>> さようなら
「さようなら」はわかりませんでした。
>>>

# ネットワーク型の実装例 (1/3)



sample2.aiml



□ ネットワーク型の対話制御では複数の内部状態の 状態遷移を表現する必要がある。。。

topic タグを使って category タグのルールが 適用されるコンテキスト(条件)を指定出来ます

Docs: 4.5 topic

ここで topic に 'S1' (内部状態) を設定しています
⇒ '天気予報' が入力されたら 'S1' に状態遷移



次ページに続きます

■ think タグで囲まれた記述は 出力文に反映されません

Docs: 6.1.61. think

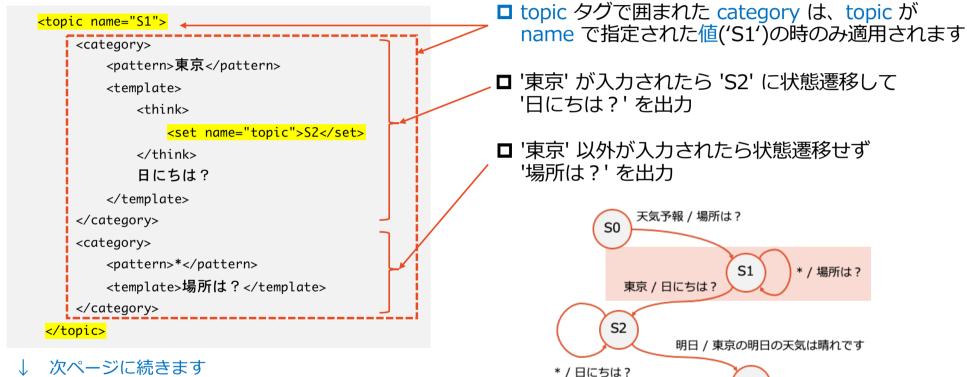
think タグで囲わないとどうなる? ⇒ 出力文が 'S1場所は?' になってしまいます





S3

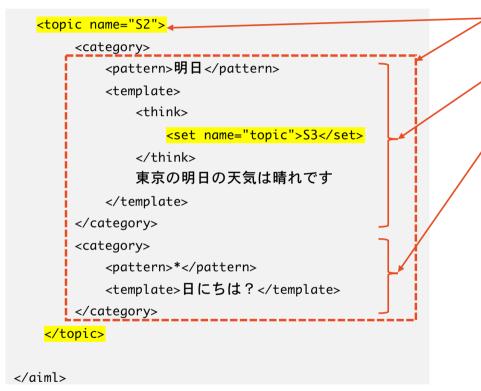
前ページからの続きです







↓ 前ページからの続きです



- topic タグで囲まれた category は、topic が name で指定された値('S2')の時のみ適用されます
- □ '明日' が入力されたら 'S3' に状態遷移して '東京の明日の天気は晴れです' を出力
- □ '明日' 以外が入力されたら状態遷移せず '日にちは?' を出力



□ topic の設定値をデフォルト値に戻す (<set name="topic">\*</set>) と topic タグで囲まれていない category が適用されます

# ネットワーク型の実装例 (3/4)



### □ 対話例

\$ cd cotoba-agent-oss/dialog-engine/sample2/script

\$ ./console.sh

>>> 天気予報

場所は?

>>> こんにちは

場所は?

>>> 東京

日にちは?

>>> 台風が心配です

日にちは?

>>> 明日

東京の明日の天気は晴れです

### AIML の変数

### COTOBA DESIGN

### sample3.aiml

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" ?>
<aiml version="2.0">
   <category>
       <pattern>私の名前は * です</pattern>
       <template>
           <think> <set name="user_name"><star /></set> </think>
           <get name="user_name" /> さん、こんにちは!
       </template>
   </category>
   <category>
       <pattern>私の出身地は * です</pattern>
       <template>
           <get name="user_name" />さんは
           <set var="birth_place" ><star /></set> の生まれなんですね。
           <get var="birth_place" /> は良いところですね。
       </template>
   </category>
</aiml>
```

- □ set タグ: 変数への値の代入 <set xxx="変数名"> 値 </set>
- □ get タグ: 変数の値の参照 <get xxx="変数名" />
- □ ローカル変数とグローバル変数があります
  - ローカル変数: var="変数名" で指定
  - グローバル変数: name="変数名" で指定
  - ローカル変数のスコープは 当該 category の中のみ

グローバル変数のスコープは すべての category の中

Docs: 1.4. 対話内容の抽出、変数利用





- □ スロットフィリング型の対話とは?
  - ユーザから順次必要な情報を聞き出し、すべての情報が取得出来たらタスクを実行
  - 必要な情報をスロットとして定義、ユーザの発話から取得した情報でスロットを埋める
- □ レストラン予約タスクの場合

日にち (今日, 明日, …)、時間 (18時, 19時, …)、人数 (2人, 3人, …) の3つのスロットを定義

U: レストラン予約

S: 予約する日にち、時間、人数、を教えて下さい

U: <mark>日にちは明日です</mark> ←

S: 予約する時間、人数、を教えて下さい

U: <mark>人数は4人です</mark> ◆

S: 予約する時間、を教えて下さい

U: 時間は19時です **★** 

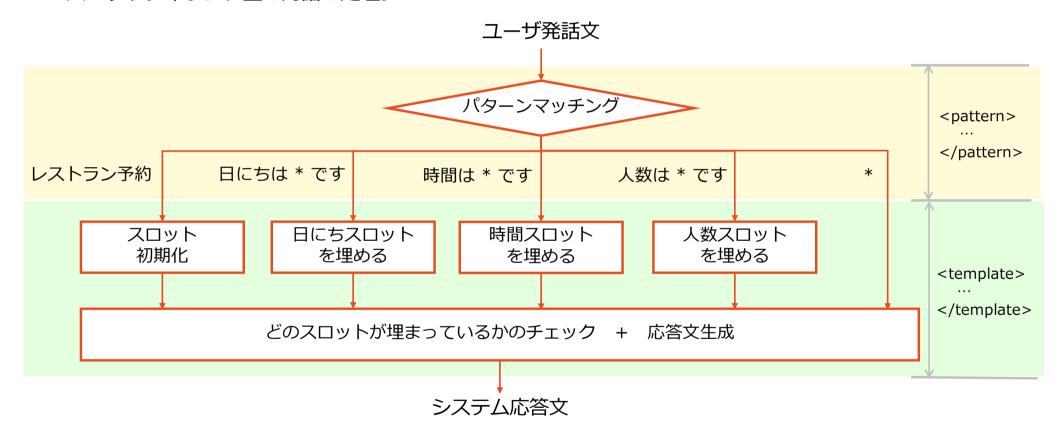
S: 明日、19時、4人で予約します

ユーザが 日にち、時間、人数を発話する順番は この対話例の通りで無くてもOK!





□ スロットフィリング型の対話の処理フロー







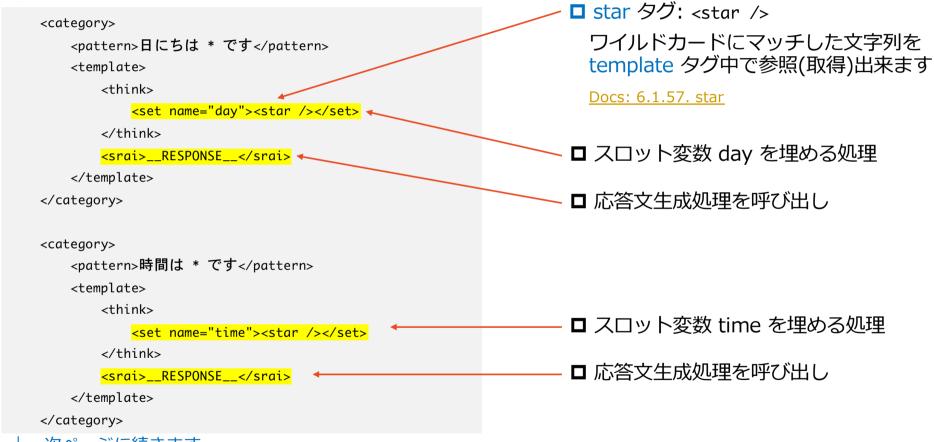
### sample4.aiml

```
□スロットの表現
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" ?>
<aiml version="2.0">
                                                   day: 日にちのスロットの変数
   <category>
                                                   time: 時間のスロットの変数
      <pattern>レストラン予約</pattern>
                                                   num_of_person: 人数のスロットの変数
      <template>
         <think>
                                                   各スロットの変数を初期化 ('unknown')
            <set name="day" >unknown</set>
           <set name="time" >unknown</set>
                                                 □ think タグに囲まれた部分は出力文に反映せず
            <set name="num_of_person" >unknown</set>
                                                   Docs: 6.1.61. think
        </think>
         <srai>__RESPONSE__</srai>
                                                 □ srai タグ: <srai> 文字列 </srai>
      </template>
                                                   '文字列' でパターンマッチを再実行する
   </category>
                                                   Docs: 6.1.55. srai
  次ページに続きます
                          スロットチェック+応答文生成の処理 (category) を呼び出し (後述)
                          <category>
                              <pattern>__RESPONSE__</pattern>
                              <template> ··· </template>
                          <category>
```





#### ↓ 前ページからの続きです



#### ↓ 次ページに続きます



# スロットフィリング型の対話 (5/8)

#### ↓ 前ページからの続きです

```
<category>
   <pattern>人数は * です</pattern>
   <template>
      <think>
                                                        ■ スロット変数 num_of_person を埋める処理
         <set name="num_of_person"><star /></set>
      </think>
                                                        □ 応答文生成処理を呼び出し
      <srai>__RESPONSE__</srai>
   </template>
</category>
<category>
   <pattern> * </pattern>
   <template>
                                                        □ 想定外の発話入力の時の処理
       「 <star /> 」はわかりません。
      <srai>__RESPONSE__</srai>
   </template>
</category>
```

#### レ 次ページに続きます

# スロットフィリング型の対話 (6/8)



#### ↓ 前ページからの続きです

```
<category>
   <pattern>__RESPONSE__</pattern>
   <template>
      <think>
         <set var="response">
            <condition name="day">
                value="unknown">日にち、
            </condition>
            <condition name="time">
                時間、
            </condition>
            <condition name="num_of_person">
                人数、
            </condition>
         </set>
      </think>
```

■ condition タグ: 条件分岐処理変数の値によってどの文字列を返すかを制御

Docs: 6.1.7.2. 条件分岐

```
<condition xxx="変数名">
      文字列1 
      文字列2 
     :: 文字列3 
     </condition>
```

if ~ elif ~ else 構文に相当

- 各スロット変数の値が埋まっているか ('unknown' 以外か)どうかで、 変数 response に設定する文字列を制御
  - ⇒ すべてのスロット変数の値が埋まっていれば response は 'unknown'



# スロットフィリング型の対話 (7/8)

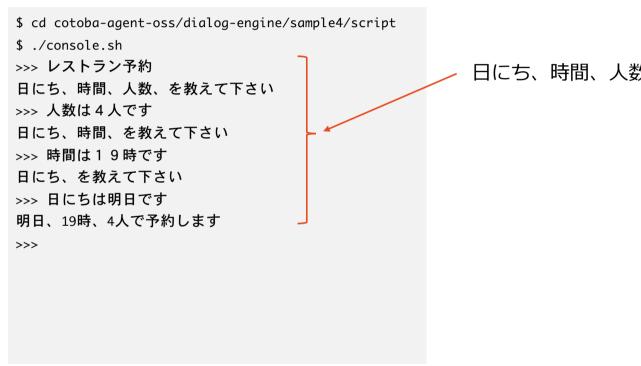
#### ↓ 前ページからの続きです

```
<condition var="response">
          value="unknown">
                                                    □ response が未定義('unknown')ならば
             <get name="day" />,
                                                      スロット変数で応答文を生成
             <get name="time" />,
             <get name="num_of_person" /> で予約します
                                                      ⇒ レストラン予約の実行を通知
          <
                                                    □ response が未定義でなければ
             <get var="response" /> を教えて下さい
                                                      response を使って応答文を生成
          ⇒ 埋まっていないスロットの情報を
       </condition>
     </template>
                                                       ユーザに要求
  </category>
</aiml>
```





### □ 対話例



日にち、時間、人数の発話の順序は任意

## 他の対話エンジンとの連携 (1/4)

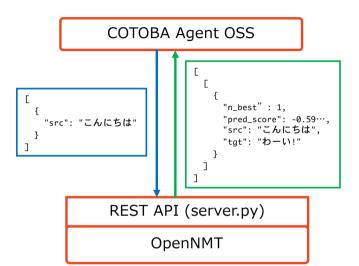


□ sraix タグ: AIML から REST API を呼び出す Docs: 13. SubAgent

レスポンスのJSONはローカル変数 \_\_SUBAGENT\_BODY\_\_ に格納されます

□ json タグ: 変数の JSON データの値の参照・値の代入 Docs: 9. JSON

	値の参照	値の代入
リスト	<pre><json index="0" var="var1"></json></pre>	<pre><json index="1" var="var1">B</json></pre>
	var1 = [ <mark>"a"</mark> , "b", "c"]	var1 = ["a", <mark>"B"</mark> , "c"]
連想配列	<pre><json var="var2.key1"></json></pre>	<pre><json var="var2.key2">B</json></pre>
	var2 = {"key1": <mark>"a"</mark> , "key2": "b"}	var2 = {"key1": "a", "key2": <mark>"B"</mark> }



# 他の対話エンジンとの連携 (2/4)



### sample5.aiml

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" ?>
<aiml version="2.0">
   <category>
       <pattern>レストラン予約</pattern> …
   </category>
   <category>
       <pattern>日にちは * です</pattern> …
   </category>
   <category>
       <pattern>時間は * です</pattern> …
   </category>
   <category>
       <pattern>人数は * です</pattern> …
   </category>
   <category>
       <pattern>__RESPONSE__</pattern> ...
   </category>
```

sample4.aiml と同じコードです

↓ 次ページに続きます

# 他の対話エンジンとの連携 (3/4)



↓ 前ページからの続きです

```
<category>
        <pattern> * </pattern>
        <template>
            <think>
                <sraix>
                    <host>http://localhost:5000/translator/translate</host>
                   <method>POST</method>
                   <header>"Content-type":"application/json;charset=UTF-8"</header>
                   <body>[ {"src": "<star />", "id": 0} ]</body>
                </sraix>
                <set var="first_item"><json var="__SUBAGENT_BODY__" index="0" /></set>
                <set var= "first item in first item" >
                   <json var="first_item" index="0" />
                </set>
                <set var="tgt"><json var="first_item_in_first_item.tgt" /></set>
            </think>
            <qet var="tat" />
        </template>
    </category>
</aiml>
CUTUDA DESIGN IIIC.
```

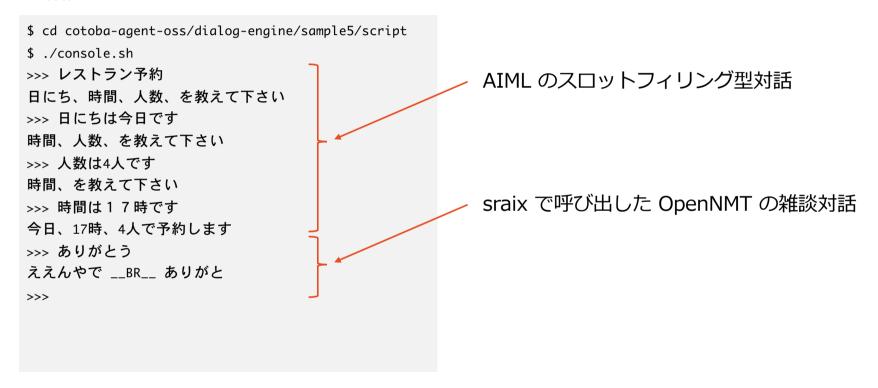
OpenNMT の REST API の呼び出し

OpenNMT のレスポンスから 応答文を取り出し





### □ 対話例





## Thank you for your attention.